

WEEKLY SIGNAL

2019年10月18日(金) 1496号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

10/21(月)		10/22(火)	10/23(水)	10/24(木)	10/25(金)
無担保O/N			△0.08% ~ 0.001%		
銀行券	トシ		トシ	△1,000	△1,000
財政他	+ 2,000		+ 2,000	+ 2,000	△8,000
資金需給	+ 2,000		+ 2,000	+ 1,000	△9,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M・1Y)				国債発行(20年) 交付税特会借入・償還
オペ期日	CP等買入 △200 社債等買入 △100 被災地支援 △100 補完供給 +300	即位礼正殿の儀			
オペスタート	ETF買入 +1,200 被災地支援 +100 補完供給 △100			社債等買入 +1,300	
(日本)	貿易収支(9月) コンビニエンスストア売上高 (9月)(前年比)		日銀営業毎旬報告(20日現在)	景気先行CI指数(8月) 景気一致指数(8月) スーパーマーケット売上高(9月)(前年比)	工作機械受注(9月)(前年比)
(海外)		米 中古住宅販売件数(9月)	米 FHFA住宅価格指数(8月) ユーロ圏 消費者信頼感指数(10月)	欧 ECB政策金利発表 欧 ドラギ総裁記者会見 米 耐久材受注(9月) 米 新規失業保険申請件数 (10月19日終了週) 米 新築住宅販売件数(9月) ユーロ圏 総合PMI(10月)	米 ミシガン大学消費者 マインド指数(10月) 独 IFO企業景況感指数(10月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は年金定時払い等の要因を受けて、前週末比8兆4,300億円増加の407兆6,900億円から始まった。週を通して概ね横ばい圏で推移し、407兆9,200億円で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は、15日は積み最終日ということもあり調達意欲が強く、△0.009%と2016年4月14日(△0.005%)以来約3年半ぶりの高水準となった。新積み初日(16日)は△0.051%に低下したものの、その後上昇基調を辿り、週末には△0.031%となった。
ターム物は、1~2W物で△0.030~△0.020%の出合が見られた。
15日、日銀は10月の地域経済報告(さくらレポート)で、北海道の判断を引き上げた一方で、残りの8地域の景気情勢判断を前回(2019年、7月)から据え置いた。
来週の主な予定は9月の貿易収支(21日)、海外ではECB政策金利発表、ドラギ総裁記者会見(24日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.250 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は、大型の償還が複数あったため約5,300億円にとどまり、週間償還額(約6,300億円)を下回った。鉄鋼や小売業の大型案件や20日スタート絡みで新規案件が増えたものの、やや落ち着いたマーケットとなった。発行残高は、先週末の19兆4,291億円から、17日時点では約19兆4,820億円と相対の新規発行を含め、微増となった模様。発行レートは、先週と変わらずほぼ0%近辺での出合い。
来週の償還総額(10/21~10/25)は2,100億円程度となっている。営業日が少ないものの、25日スタートの発行で新規案件が見込まれるため、発行超を予想する。発行レートは、投資家ニーズが強く0%近辺での出合いと思われる。

<TDB>

17日の1Y864回債入札結果は最高落札利回り▲0.1876%(前回債▲0.2171%)、平均落札利回り▲0.1936%(同▲0.2200%)となり、入札後▲0.20%~▲0.23%で取引された。また18日の3M865回債(来年1/20償還)の入札結果は最高落札利回り▲0.1991%(前回債▲0.2801%)、平均落札利回り▲0.2385%(同▲0.3049%)となり、入札後は▲0.19%~▲0.205%で出合いが見られた。そのほかのセカンダリーでは、年内償還の3M物が▲0.16%、年末越え3M物が▲0.28%~▲0.31%、6M物が▲0.25%~▲0.285%で取引された。

<レポ>

足許GC取引は、受渡日が新積み期に入り、△0.095%~△0.09%での取引からスタート。しかしその後はレートが上昇し、週末約定の21日受渡しでは短国3Mと1Yの発行があり△0.06%近辺での出合いとなった。SC取引は2年402~405回債、5年136~140回債、10年337~356回債、20年164~169回債、30年62・63回債、40年9・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。